

合格体験記

氏 名:

担任講師: 岡本 三成 先生

在籍校舎: 高田馬場 校

進学先 秋田大学 (医・医)

その他
合格校

慶応(薬)、東京理科大(理・化)、明治大(農)

*入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

私がいまから書くことは、あくまで一個人の経験に基づいたものであり、全員に適応できないことを踏まえた上で話半分にお読みいただきたいと思います。さて、私はこの合格体験記では、私が受験に重宝であると感じている2つのポイントを書いてみたいと思います。

①センター試験の対策は早めにしておいた方がよい。私の場合、センター対策も高校三年の夏まで放っておいたため、センター対策と二次対策も同時進行でやり続ける半年を過ごした。その結果、センター対策も十分にできなかったまま本番になってしまい、目標の点数を越えることができず、志望校を変更するはめになった。この様な事態にならないために皆様にはぜひとも、予備校や学校などで履修した範囲だけでも良いので、赤、黒、青本を早めに買って対策していたいただきたい。具体的な対策については様々な手法があるが、センターは基本を当たり前にできているかのチェックとして利用するのが良いかと思われる。その様にして、高校二年ごろから慣れ込めれば、形式にやられせず、センターボケもなく、気持ちよく二次試験が受けられると思う。

②英、数のどちらか一方は最難でも得意にしておくべきである。時に、理系選抜者は、英、数のどちらか必要であることが多いために、どちらか苦手という人はかなりのアドバンテージを取られていいると考えた方がよい。実際、私の周りで、四大や旧帝大や医学部に受かっている人間は少なくともどちらかが得意である。し東大、京大の人は基本的に全部ですすむ)私の場合は、英語が得意であり、最後まで自分の味方になってくれた。

試験トで守バする時間と作ることをがてした。
 このように、英、数、のどちらかが得意だと
 得点的にも、精神的にも余裕がでず、実力を
 十分に発揮できると思われる。

以上、2つのポイントについて大まかに書
 いてきたが、私の文章の拙さ等により、言
 いたいことが全て伝わっていただいていると思
 うが、その点はご容赦願いたい。

最後に私が使用した参考書等を紹介したい。

- ①鉄壁、リニがメタリカ、速算(上級)。
 全て英単語帳でこの順に使用した。
- ②標準問題精講(生物)。高3から使用し
 た。解説も丁寧で大好きでした。
- ③大森徹の最強講義(生物)これも好き。
- ④青チャート。基本の確認に最適かと思
 います。なぜ?と教えてくれる予備校等に巡
 りあうことが理系科目は全て重要だと思
 います。
- ⑤偏政の点数が面白い程取れる本。9月か
 ら始めて、85点でした。学校で授業があると
 良いかもしれません。(私は70が、たてず)
- ⑥セニター試験(化学)。セニターが9割
 安定した頃には、二次も全く歯がたつた
 と思います。